

授業科目	高度補綴治療学（インプラント再生補綴学）		
区分・単位	講義・演習・実習 9単位	関連分野等	歯周病態学分野、顎顔面口腔矯正学分野
年次・期別	1年次～4年次	曜日・時限	月曜日～金曜日
教室	保存科・補綴科診療室、顎口腔機能制御学分野研究室	電話番号	086-235-6680（窪木拓男：指導医） 086-235-6682（松香芳三：チーフ）
担当教員	【研究科】教授：窪木拓男 准教授：松香芳三 助教：水口 一 助教：縄稚久美子 助教：木村 彩 【病院】講師：完山 学 講師：前川賢治 助教：荒川 光 助教：藤澤拓生 助教：園山 亘		
一般目標	高度補綴治療学に関わる広い学識と高度な専門技能を取得し、補綴歯科専門医としての素養を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高度補綴治療に必要な歯科材料学、解剖学、生理学、病理学、薬理学、生化学を理解する 2. 歯科補綴治療の臨床成績を説明できる 3. 全顎的な補綴（フルマウスリコンストラクション）を行う際に必要な診査を行い、治療計画を立案する 4. プロビジョナルレストレーションの意義と目的を理解し、プロビジョナルレストレーションを生かした最終補綴を実践する 5. 補綴前処置としての歯周外科や歯槽堤増大術、骨移植、GBR、小矯正を実践する 6. クラウン、ブリッジ、義歯、インプラントによる効率的な歯科補綴治療を実践する 7. 歯科補綴治療による治療効果を判定できる 		
講義概要	<p>1) 高度補綴治療学講義：窪木・松香・完山・前川 補綴歯科専門医に必要な歯科材料学、解剖学、生理学、病理学、薬理学、生化学などの基礎科目を基礎系分野の協力を得て学習する。補綴治療の意義、目的、手段、方法などの基本事項から歯周外科や歯槽堤増大術、骨移植、GBR、小矯正などの応用事項を学習する。また、神経因性疼痛などの偶発症について診断治療ができるよう学習する。</p> <p>2) 歯科補綴患者治療（臨床実習）：関連教員 補綴患者の治療を行い、治療の実際を体得する。また、治療後には治療進行報告会において、進行状況を報告する。その時点での結果、問題点の解決策、考えられる解釈などに関する議論を展開し、参加者からの質問、意見に回答する。これらの積み重ねにより、論理的思考と議論展開の基礎を学ぶ。</p> <p>3) 症例検討会（演習）：全教員 補綴症例検討会に参加し、順次回ってくる順番に従い、各自の治療内容を過去のエビデンスと対比させ、論理的・科学的に報告する。また、他者の発表では、治療法に関して議論を展開する。</p> <p>4) 各種セミナー（演習）：関連教員 EBMセミナーをはじめ、国内外を問わず他機関講師によるセミナーを積極的に受け、治療・研究の最先端の知識ならびに研究者の議論展開を学ぶ。これはあらゆる知識を得るため、他教室主催のものも積極的に受けることを強く推奨する。</p> <p>4) 学会参加（講義、演習）：学会参加の研究G担当教員（疫学研究G：窪木・縄稚、神経機能再生G：松香、骨再生G：完山・園山、筋機能G：前川、補綴臨床成績G：荒川、パラファンクションG：水口、組織再生G：藤澤） 日本補綴歯科学会に参加し、他発表者の論理展開を理解する。学内のみならず、学外の研究者との交流によって議論を発展させ、より深い追求心が生まれる。また、日本補綴歯科学会の専門医（5年間）取得のために、学術大会参加、専門医研修セミナーに参加し、知識を深める。また、臨床症例報告ができるように準備しておく。</p>		
テキスト・参考書等	専門書から論文まで多岐にわたるため、その都度指示する。ただし、指示せずとも、自ら見出す方が望ましい。		
成績評価基準 成績評価方法	1週間に3回、教授を交えて、治療法に関する議論を展開する。その内容と、日ごろの治療姿勢、セミナーに対する姿勢などから総合的に判断する。		
研究活動との 関連	研究室では高度補綴治療学に関する研究（補綴治療の臨床統計、金属アレルギー患者への治療体系確立、インプラント義歯に関する臨床疫学、顎関節症や顎顔面痛などの診断と治療法の確立など）・臨床を行っており、その延長線上に、この授業科目が存在している。		

基礎実習	臨床診査、治療手技に関する基礎実習は講義の中で必要に応じて実施する。また、模型や抜去歯を用いた基礎実習は、1年次に行う。
臨床実習	1年次は教授診療のアシストを中心に高度補綴学の診査・診断・治療に関して実習する。1年次後半からはクリニカルクラークシップにより実際の患者に対する診査・診断・治療を20症例以上実習する。
症例検討会	症例検討会は、隔週で火曜日に行う。
講義日程	<p>講義、症例検討会、論文抄読は、火曜日（19:00～）に歯学部棟9階中央図書室にて行う。予定は登録大学院生に事前に通知する。また、日程が変更になる場合にも登録大学院生に事前に通知する。来年度の詳細は未決定であるが、本年度の一例を提示するので、参考にして頂きたい。</p> <p>ボツリヌス毒素の臨床応用に関する展望 松香芳三 平成20年6月10日：論文抄読 平成20年6月17日：症例検討会 平成20年6月24日：骨再生に関する基礎的検討 完山 学 チタン表面への骨新生に関する検討 前川賢治 平成20年7月1日：チタン表面へのオッセオインテグレーション 平成20年7月8日：高齢者における三叉神経因性疼痛に対する治療法 平成20年7月22日：論文抄読 平成20年7月29日：症例検討会</p> <p>臨床実習は、毎週月～金曜日の9～16時に保存科・補綴科診療室で行う。</p> <p>また、以下のシンポジウム、特別講義を企画しているので、参加して頂きたい。 平成21年5月17、18日：第2回国際教育シンポジウム 平成21年6月：臨床教授 近藤康弘先生の高齢社会における歯冠補綴に関する特別講義 平成21年8月：臨床准教授 今井誠先生のポーセレンの接着に関する特別講義 平成22年1月：臨床講師 鈴木秀典先生のインプラント義歯に関する特別講義 平成21年8月：第3回EBMセミナー 平成21年12月8日：東京医科歯科大学臨床教授の柏田聰明先生の高度補綴治療に関する特別講義</p>
本年度参加が望ましい学会等	<p>第118回(社)日本補綴歯科学会学術大会 日時：平成21年6月5日（金）～8日（月） 会場：国立京都国際会館</p> <p>日本補綴歯科学会中国・四国支部学術大会 日時、会場：未定</p>